

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

平和憲法の精神を生かすために

— キリスト教会と信徒の使命 —

日本聖公会正義と平和委員会委員長
沖縄教区主教 ダビデ 谷 昌二

ドイツの有名な哲学者エマヌエル・カントの「永遠平和のために」が、池内紀^{おきむ}氏によって若者にも読めるようにと新しく訳され、人気を博しています。一集英社2007年初版— 1795年に記されたものですが、今、その価値が見直される時に至っていることを痛感します。その中の言葉からいくつか紹介します：

「隣り合った人々が平和に暮らしているのは、人間にとってじつは『自然な状態』ではない。戦争状態、つまり敵意がむき出しというのではないが、いつも敵意で脅かされているのが『自然な状態』である。だからこそ平和状態を根づかせなくてはならない。」

「常備軍はいずれ、いっさい廃止されるべきである。」

「戦争を起こさないための国家連合こそ、国家の自由とも一致する唯一の法的状態である。」

「殺したり、殺されたりするための用に人をあてるのは、人間を単なる道具として他人（国家）の手にゆだねることであって、人格にもとづく人間性の権利と一致しない。」

カント（1724～1804）が生きていた時代、ヨーロッパは戦争に次ぐ戦争に明け暮れ、国家権力のもとで、人の命が湯水のごとくに浪費され、大切な財産が奪われ破壊され続けていました。70歳を越えたカントが、やむにやまれずに国々の指導者、知識人に問いかけ、どうしたら戦争のない社会をもたらすことができるのか、その私案を示したのがこの小冊子です。人権を尊重し、反戦・非武装で世界平和の実現を求め

ているわが国の憲法に、カントの精神が豊かに生かされているのを感じます。

今年の5月17日～18日、日本聖公会各教区の「正義と平和担当者の会」が開かれました。各教区からの報告の中で、青年の中に「平和」に対する拒否反応があるとの報告があり、ショックを受けました。が、青年だけでなく、教会全体の中にも同じような雰囲気を感じておられる人も多くおられることも分かち合われました。

2007年8月15日の東京新聞の社説に、「平和は未来を奪う。希望は戦争。」という31歳フリーター赤木智弘さんの論文が、若者の心をとらえ、共感を広げていることが紹介されました。定職に就くことができず、10万円強の月給で10数年親元で暮らさざるを得ない生活が、この主張の背景にあります。

今年は、もっと状況が悪くなっています。世界経済の大恐慌、大量の失業者、そして国内外の政治の混乱、自然環境の破壊、次々に起こる人災・自然災害…。真剣に「平和」を願う心が、どこか影の薄いものになりつつあるのではないかと心配です。今日も明日も、今のままの状態が変わらないことが「平和」だとすると、そこには未来がないと思い込み、無力感に導くような“平和的膠着状態”を打ち破るために、戦争に期待をかける誘惑が待っています。しかし、戦争の結果はさらに悲惨であることを、もっとはっきりと見据えなくてはなりません。

長い歴史を振り返り、教会が直接、反戦平

和のために発言し、何か行動を起こしてきたことはごく少なかったのではないのでしょうか。日本聖公会も1996年になって戦争責任の告白をすることができました。カトリック教会教皇ヨハネ・パウロ二世が2000年を迎えて、ユダヤ人を苦しめてきた罪を認め、異端に対する敵意・暴力、そして人種・民族的な差別・排他的行為に対して懺悔をされた新鮮な感動がまだ心に残っています。

今、世界が変わろうとしています。教会も変わる時を迎えているのではないのでしょうか。

戦争・軍隊によっては平和を実現できないことは、世界各地の紛争を見れば明らかです。“軍事力によらない安全保障”を一刻も早く実現する必要性が、国連等によって提唱されています。それは「人間の安全保障」と「共通の安全保障」です。一人ひとりの命が、平等に尊ばれ、貧困、飢餓、病気、人権の抑圧等からの解放を目指す「人間の安全保障」の実現。そして、過去の戦争責任を自覚しながら、地域ごとの「共通の安全保障」を築いていくこと。

世界は、すでに地域ごとの連帯と「共通の安全保障」に向かって動き出しています。EU・ヨーロッパ連合、南アメリカ諸国連合から中南米カリブ連合へ、アフリカ諸国での連合、東南アジアではアセアンなどです。残念ながら、東北アジアでは、未だにこの動きが見られません。日

本のアメリカ一辺倒の姿勢、朝鮮半島の分断、台湾と中華人民共和国との関係など、大変な障害がありますが、たとえどんなに困難であっても、東北アジアの「共通の安全保障」に向かって歩いて行かなければならない時が、確実に来ていると思います。

人権を尊重し、反戦・非武装で世界平和の実現を求めているわが国の憲法を、今こそ生かす時です。改憲によって軍隊を保持する国造りは、歴史に逆行しています。

私たちは、主イエス・キリストに救われ、主の十字架によって罪が赦され、一人ひとりがご復活の命に生かされていることを信じています。そして、その無限に尊い命が、み子のからだに結ばれ共に生かされる喜びの国＝神の国が、この地に成就することを目指して歩んでいます。この命の喜び、み国の実現の希望こそ、平和の原点です。ここに、この世の様々な困難を乗り越えることができる和解と平和の道があると信じます。

現実はいかに厳しいものであっても、神の国は始まっています。聖霊の力によって、わたしたちをこの世に遣わし、み旨を行わせてください、平和がこの地に実現しますようにと、真剣に祈り求めていきましょう。平和憲法を生かす力はここにあると信じます。

2009年8月15日

主にある兄弟姉妹の皆さんへ

日本聖公会
首座主教 ナタナエル 植松 誠
正義と平和委員会
委員長 主教 ダビデ 谷 昌二

8・15平和メッセージ

主の平和が、皆さんとともにありますように。

日本聖公会宣教150周年を迎え、主に感謝いたします。今年も、8月15日、敗戦の日にあたり、心新たに、主にある平和への思いを深めたいと願います。

今、私たちは激動の時を迎えています。100年に一度と言われる世界経済大恐慌は、各国政府の努力にも拘わらず、収まる気配を見せません。職を失った人、あるいは失うかもしれない不安の中にいる多くの人たちのことを、私たちは、自分のこととしてしっかりと受け止めたいと思います。この厳しい経済情勢の中で、わが国の政治もまた、大きな転換期を迎えています。

このような社会情勢の変化、不安定な状況の中で、人々の心に平和への思いがどんどん薄れ、自国の利益のみを追求し、軍事化への傾向が加速されることは歴史の教えるところです。特に、若い世代に“平和ではなく戦争を”との思いが広がっているとされます。歴史の中で、社会の閉塞状態を打破するために、度々戦争が利用されてきました。現在も又、その危険性は、常に存在しています。若い人々が、自らの意志で戦争を希望する現実を、私たちは真摯に受け止めなければなりません。世の中に失望したとき、何をしても無駄だと言う自己破壊的な衝動が生まれ、それが他者を破壊する行動へとせき立てて行くのではないのでしょうか。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」(ユネスコ憲章前文)

私たちは、主イエス・キリストに救われ、主の十字架によって罪が赦され、一人ひとりをご復活の命に生かされていることを信じています。そして、その無限に尊い命が、み子のからだに結ばれ共に生かされる喜びの国=神の国が、この地に成就することを目指して歩んでいます。この命の喜び、み国の実現の希望こそ、平和の原点です。ここに、この世の様々な困難を乗り越えることができる和解と平和の道があると信じます。

戦争・軍隊によっては平和を実現できないことは、今、世界各地の紛争を見れば明らかです。“軍事力によらない安全保障”を一刻も早く実現する必要性が、国連等によって提唱されています。それは「人間の安全保障」と「共通の安全保障」です。一人ひとりの命が、平等に尊ばれ、貧困、飢餓、病気、人権の抑圧等からの解放を目指す「人間の安全保障」の実現。そして、過去の戦争責任を自覚しながら、平和憲法を生かし、アジアでの「共通の安全保障」を築いていくこと。これが、私たちのこれからの課題であることを信仰をもって受け止め、反戦の誓いを新たにしたいと思います。

現実はいかに厳しいものであっても、神の国は始まっています。聖霊の力によって、わたしたちをこの世に遣わし、み旨を行わせてください、平和がこの地に実現しますようにと、真剣に祈り求めていきましょう。





8月5-6日

神戸教区・第4回

「広島平和礼拝」行われる!

<詳細は次号に掲載>

(報告) 広島平和礼拝 2009 実行委員・河原和則

(写真協力) 広島復活教会・宮地寛仁

※広島平和礼拝公式サイト

<http://hpps.web9.jp/>

日本聖公会 宣教 150 周年記念

● 記念礼拝 2009年9月23日(水・祝) 13:30～

説教: ローワン・ウィリアムズ カンタベリー大主教

司式: 日本聖公会首座主教および各教区主教による共同司式

礼拝参加者 2000名を超えることが予想されます

〈会場〉カトリック東京カテドラル 聖マリア大聖堂(東京都文京区関口3-16-15)



● 記念プログラム 2009年9月22日(火・休) 11:00～ 立教大学池袋キャンパス

- 写真展「日本聖公会の歴史と全教会」(11号館脇)
 - ・各教区の教会、諸施設、教役者
 - ・第1回宣教者会議(1887年)、ウィリアムズ主教の肖像などの歴史資料と解説
- 展示ブース(タッカーホール脇広場)
 - ー各教会、関連団体等によるアピール・活動報告・物品販売などー
- コンサート(12:30～14:00 チャペル) 大韓聖公会ソウル教区オモニ聖歌隊、ほか
- シンポジウム「東アジアの平和と聖公会の役割」(14:00～16:00 11号館 AB01 教室)
 - 大韓聖公会ソウル教区 キム グンサン 金 根祥主教
 - フィリピン聖公会北中央教区 ジョエル・パチャオ主教
 - 日本聖公会沖縄教区 谷 昌二主教
- カンタベリー大主教青年との対話(16:00～16:45)
- 夕の礼拝(17:00～18:00 タッカーホール)
 - 説教 米国聖公会 ジェファーツ=ショール総裁主教
- 交流会(18:00～ 立教大学第一学生食堂)

